

別表第 2（第 27 条関係）

(1) 介護・訓練支援用具

種 目	性 能 等	対 象 者	基準額	耐用年数
特殊寝台 （訓練用ベッド）	腕、脚等の訓練のできる器具を付帯し、原則として使用者の頭部及び脚部の傾斜角度を個別に調整できる機能を有するもの	学齢児以上で、下肢又は体幹機能障害 2 級以上の者	166,320 円	8 年
特殊マット	褥瘡の防止又は失禁等による汚染又は損耗を防止できる機能を有するもの	3 歳以上で、下肢若しくは体幹機能障害 2 級以上、又は療育手帳の判定が重度若しくは最重度のいずれかの者のうち、常時介護を要するもの	21,500 円	5 年
特殊尿器	尿が自動的に吸引されるもので、障害者又は介護者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、下肢又は体幹機能障害 1 級の常時介護を要する者	72,360 円	5 年
入浴担架	障害者を担架に乗せたままリフト装置により入浴させるもの	3 歳以上で、下肢又は体幹機能障害 2 級以上の者のうち、入浴に当たって、家族等他人の介助を要するもの	90,600 円	5 年
体位変換器	介助者が障害者の体位を変換させるのに容易に使用し得るもの	学齢児以上で、下肢又は体幹機能障害 2 級以上の者のうち、下着交換等に当たって、家族等他人の介助を要するもの	16,200 円	5 年
移動用リフト	介護者が重度身体障害者を移動させるに当たって、容易に使用し得るもの（天井走行型その他住宅改修を伴うものを除く。）	3 歳以上で、下肢又は体幹機能障害 2 級以上の者	159,000 円	4 年
訓練いす	原則として付属のテーブルを付けるものとする	3 歳以上 18 歳未満で、下肢又は体幹機能障害 2 級以上の者	36,300 円	5 年

(2) 自立生活支援用具

種 目	性 能 等	対 象 者	基準額	耐用年数
入浴補助用具	入浴時の移動、座位の保持、浴槽への入水等を補助でき、障害者又は介助者が容易に使用し得るもの（設置に当たり住宅改修を伴うものを除く。）	3歳以上で、下肢障害4級又は体幹機能障害3級以上の者のうち、入浴に介助を必要とするもの	99,000 円	8 年
便器	障害者が容易に使用し得るもの（手すりを含む。取替えに当たり住宅改修を伴うものを除く。）	学齢児以上で、下肢障害4級又は体幹機能障害3級以上の者	11,000 円	8 年
T字状・棒状のつえ	1本のみの使用で歩行を安定させることができ、障害者が容易に使用できるもの（夜光材等も含む。）	下肢・体幹・平衡・移動機能に障害を有し、歩行可能な者	木材製 3,800 円 軽金属製 4,900 円	3 年
移動・移乗支援用具	障害者の身体機能の状態を十分踏まえ、必要な強度と安全性を有し、転倒防止、立ち上がり動作の補助、移乗動作の補助、段差解消等のできる手すり、スロープ等（設置に当たり住宅改修を伴うものを除く。）	3歳以上で、平衡機能又は下肢若しくは体幹機能に障害を有し、家庭内の移動において介助を必要とする者	66,000 円	8 年
頭部保護帽	転倒の衝撃から頭部を保護できるもの	身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持し、てんかん等の発作又は身体の状態により歩行が不安定等の理由により頻繁に転倒するため、必要と認められる者	スポンジ、革が主材料のもの 15,200 円 スポンジ、革、プラスチックが主材料のもの 36,750 円	3 年
特殊便器	温水温風を出し、障害者が容易に使用し得るもの（取替えに当たり住宅改修を伴うものを除く。）	学齢児以上で、上肢障害2級以上、又は療育手帳の判定が重度若しくは最重度の者	166,300 円	8 年

火災警報器	室内の火災を煙又は熱により感知し、音又は光を発し屋外にも警報ブザーで知らせ得るもの	身体障害２級以上、又は療育手帳の判定が重度若しくは最重度の者（火災発生感知及び避難が著しく困難な障害者のみの世帯及びこれに準ずる世帯）	17,000 円	8 年
自動消火器	室内温度の異常上昇又は炎の接触で自動的に消火液を噴射し初期火災を消火し得るもの	身体障害２級以上、又は療育手帳の判定が重度若しくは最重度の者（火災発生感知及び避難が著しく困難な障害者のみの世帯及びこれに準ずる世帯）	31,500 円	8 年
電磁調理器	視覚障害者が容易に使用し得るもの	18 歳以上で、視覚障害２級以上の者（視覚障害者のみの世帯及びこれに準ずる世帯）	45,100 円	6 年
歩行時間延長信号機用小型送信機	視覚障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、視覚障害２級以上の者	7,000 円	10 年
聴覚障害者用屋内信号装置	声、音声等を視覚、触覚等により知覚できるもの	12 歳以上で、聴覚障害２級の者（聴覚障害者のみの世帯及びこれに準ずる世帯）	87,400 円	10 年
視覚障害者生活支援用具	音声、凸線等により知覚でき、日常生活や学習等を補助するもので、視覚障害者が容易に使用し得るもの	視覚障害２級以上の者	30,000 円	5 年

- (注１) T字状・棒状のつえ、頭部保護帽については、入院中及び施設入所中の者にも給付できるものとする。
- (注２) 入浴補助用具、移動・移乗支援用具及び頭部保護帽については、障害の状態等が変化し、前回給付したもので日常生活が送れないと医師が認めた場合、耐用年数内でも給付できるものとする。
- (注３) 入浴補助用具、移動・移乗支援用具、聴覚障害者用屋内信号装置及び視覚障害者生活支援用具については、用具の種類が異なる場合に限り、最初の支給決定に係る当該用具の耐用年数内において基準額まで複数回給付できるものとする。

(3) 在宅療養等支援用具

種 目	性 能 等	対 象 者	基準額	耐用年数
透析液加温器	透析液を加温し、一定温度に保つもの	3歳以上で、腎臓機能障害の者	51,500 円	5 年
ネブライザー	障害者又は介助者が容易に使用し得るもの	次のいずれかを満たしているもの ア 呼吸器機能障害又は音声言語機能障害で喉頭を摘出した者 イ アに該当する者を除いた手帳所持者で、医師が必要と認めた者	39,600 円	5 年
電気式たん吸引器	障害者又は介助者が容易に使用し得るもの	次のいずれかを満たしているもの ア 呼吸器機能障害又は音声言語機能障害で喉頭を摘出した者 イ アに該当する者を除いた手帳所持者で、医師が必要と認めた者	62,000 円	5 年
酸素ボンベ運搬車	障害者が容易に使用し得るもの	医療保険における在宅酸素療法を行う者	18,700 円	10 年
視覚障害者用体温計（音声式）	視覚障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、視覚障害2級以上の者	9,000 円	5 年
聴覚障害者用体温計	聴覚障害者が容易に使用し得るもの	聴覚障害3級以上の者（聴覚障害者のみの世帯及びこれに準ずる世帯）	5,000 円	5 年
視覚障害者用体重計	視覚障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、視覚障害2級以上の者（視覚障害者のみの世帯）	18,000 円	5 年
動脈血中酸素飽和度測定器（パルスオキシメーター）	障害者又は介助者が容易に使用し得るもの	手帳所持者で、人工呼吸器の装着又は医療保険における在宅酸素療法が必要と医師が認めた者	人工呼吸器の装着が必要な者 173,200 円 在宅酸素療法が必要な者 42,700 円	5 年

人工鼻	障害者又は介助者が容易に使用し得るもの	身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持し、人工呼吸器の装着又は気管切開が必要と医師が認めた者	10,700 円 (1 か月当たり)	—
		音声言語機能障害者で喉頭を摘出した者	24,200 円 (1 か月当たり)	—
人工呼吸器用バッテリー	使用している人工呼吸器専用のバッテリー（充電器及びインバーター等を含む。）	呼吸器機能障害 3 級以上又は同程度の身体障害を有し、人工呼吸器の装着が必要と医師が認めた者	200,000 円	5 年
自家発電機	A C100V（正弦波）の出力ができ、人工呼吸器用のバッテリー等を充電できるもの		100,000 円	10 年
外部バッテリー又はポータブル電源	A C100V（正弦波）の出力ができ、使用する医療機器の消費電力(W)に対応できるもの	呼吸器機能障害 3 級以上又は同程度の身体障害を有し、電気式たん吸引器又はネブライザーを使用しているもので、呼吸管理が必要と医師が認めた者	50,000 円	5 年

（注 1） 人工鼻については、入院中及び施設入所中の者にも給付できるものとする。

（注 2） 人工鼻については、診療報酬の対象となる範囲を超えたものについて支給する。

（注 3） 人工呼吸器用バッテリー、外部バッテリー又はポータブル電源については、最初の支給決定に係る当該用具の耐用年数内において基準額まで複数回給付できるものとする。

（注 4） 外部バッテリー又はポータブル電源については、日常生活用具給付履歴等で電気式たん吸引器又はネブライザーの使用が確認できる場合、医師の意見書を省略することができるものとする。

(4) 情報・意思疎通支援用具

種 目	性 能 等	対 象 者	基準額	耐用年数
携帯用会話補助装置	携帯式で、ことばを音声又は文章に変換する機能を有し、障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、音声言語機能障害者又は肢体不自由者のうち、発声又は発語に著しい障害を有するもの	98,800 円	5 年
情報・通信支援用具	情報機器（パーソナルコンピュータ）を使用する際に必要となる周辺機器、ソフト等で、障害があることにより必要となり、かつ社会参加の促進を図ることができるもの	学齢児以上で、視覚又は上肢障害 2 級以上の者	110,000 円	6 年
点字ディスプレイ	文字等のコンピュータの画面情報を点字等により示すことのできるもの	学齢児以上で、視覚障害 2 級以上の者	383,500 円	6 年
点字器	視覚障害者が容易に使用し得るもの 標準型 32 マス 18 行程度、両面書のもの 携帯用 32 マス、金属製は 4 行程度、プラスチック製は 12 行程度、片面書のもの	学齢児以上の視覚障害者で、日常生活に点字を必要とするもの	標準型 金属製 10,400 円 プラスチック製 6,600 円 携帯用 金属製 7,200 円 プラスチック製 1,650 円	標準型 7 年 携帯用 5 年
点字タイプライター	視覚障害者が容易に使用し得るもの	視覚障害 2 級以上の者（就労若しくは就学している者又は就労が見込まれる者に限る。）	63,100 円	5 年
視覚障害者用ポータブルレコーダー	音声等により操作ボタンが知覚又は認識でき、かつ、DAISY方式による録音並びに当該方式により記録された図書の再生が可能な製品であって、視覚障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、視覚障害 2 級以上の者	89,800 円	6 年

音声 I C タグレコーダー	視力に障害を有する者の物の識別を容易にする製品であって、点字、凸線等により操作ボタンが知覚でき、かつ、I C タグその他の集積回路とアンテナを内蔵する物品の持つ識別情報を無線により読み取り、当該識別情報と音声データを関連付け、音声データを音声信号に変換して出力する機能及び音声により操作方法に関する案内を行う機能を有するもの	学齢児以上で、視覚障害 2 級以上の者	59,800 円	6 年
視覚障害者用活字文書読上げ装置	文字情報と同一紙面に記載された当該文字情報を暗号化した情報を読み取り、音声信号に変換して出力する機能を有するもので、視覚障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、視覚障害 2 級以上の者	115,000 円	6 年
視覚障害者用拡大読書器	画像入力装置を読みたいものの（印刷物等）の上におくことで、簡単に拡大された画像（文字等）をモニターに映し出せるもの又は音声で読み上げるもの	学齢児以上の視覚障害者で、本装置により文字等を読むこと又は音声で認識することが可能になる者	198,000 円	8 年
視覚障害者用時計	視覚障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、視覚障害 2 級以上の者	13,300 円	10 年
視覚障害者用地デジ対応ラジオ	地上デジタル放送を受信し、かつ、災害時の緊急放送を受信すると自動的に起動する機能を有するもので、視覚障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上で、視覚障害 2 級以上の者	29,500 円	5 年
聴覚障害者用通信装置	一般の電話に接続することができ、音声の代わりに、文字等により通信が可能な機器であり、障害者が容易に使用できるもの	学齢児以上で、聴覚障害 4 級以上又は音声言語機能障害を有し、コミュニケーション、緊急連絡等の手段として必要と認められる者	44,000 円	5 年

聴覚障害者 用情報受信 装置	字幕及び手話通訳付きの聴覚障害者用番組並びにテレビ番組に字幕及び手話通訳の映像を合成したものを画面に出力する機能を有し、かつ、災害時の聴覚障害者向け緊急信号を受信するもので、聴覚障害者が容易に使用し得るもの	聴覚障害者で、本装置によりテレビの視聴が可能になる者	88,900 円	6 年
携帯用信号 装置	送信機による合図が、視覚、触覚等により知覚できるもの	学齢児以上で、聴覚障害又は音声言語機能障害 3 級以上の者	20,500 円	6 年
人工喉頭	<p>笛式</p> <p>呼気によりゴム等の膜を振動させ、ビニール等の管を通じて音源を口腔内に導き構音化するもの（気管カニューレ付を含む。）</p> <p>電動式</p> <p>顎下部等にあてた電動板を駆動させ経皮的に音源を口腔内に導き構音化するもの（電池又は充電器代を含む。）</p>	喉頭摘出により音声機能を喪失した者	<p>笛式</p> <p>8,100 円</p> <p>電動式</p> <p>70,100 円</p>	<p>笛式</p> <p>4 年</p> <p>電動式</p> <p>5 年</p>
視覚障害者 用図書	月間や週間等で発行されている雑誌を除く点字図書、大活字図書又は D A I S Y 図書	視覚障害者で、主に情報の入手を点字、大活字又は D A I S Y 方式により記録された図書によっている者	年間 60,000 円	—
人工内耳用 電池	人工内耳外部装置用の電池として、対象者が容易に使用し得るもの	聴覚障害を有し、人工内耳埋込手術を受け、現に装用している者	<p>空 気 亜 鉛 電 池</p> <p>月額 2,500 円</p> <p>充電池</p> <p>24,400 円</p>	<p>空 気 亜 鉛 電 池</p> <p>—</p> <p>充電池</p> <p>2 年</p>
人工内耳用 充電器	人工内耳外部装置用の充電池に適合する充電器で、対象者が容易に使用し得るもの	聴覚障害を有し、人工内耳埋込手術を受け、現に装用している者	25,400 円	5 年

人工内耳体外装置	人工内耳用音声信号処理装置、マイクロホン、送信コイル、送信ケーブル、マグネット及び接続ケーブル等で、対象者が容易に使用し得るもの（民間保険及び医療保険が適用されるものを除く。）	聴覚障害を有し、人工内耳埋込手術を受け、現に装用している体外装置が5年以上経過している者	203,700 円	5 年
療育支援用具	言語訓練、手先訓練、数的訓練、認知訓練、コミュニケーション訓練等が可能な製品であって、対象者が容易に使用し得るもの	18 歳未満で、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳を所持する者であって、用具の使用により療育の効果が見込まれる者	30,000 円	3 年
暗所視支援眼鏡	高感度カメラで捉えた微光を増幅させる機能を有し、眼鏡のディスプレイに鮮明な画像として投射できるもので、視覚障害者が容易に使用し得るもの	学齢児以上の視覚障害者で、夜盲又は視野狭窄があり、医師が必要と認めた者	395,000 円	8 年
音声色彩判別装置	色彩を音声で知らせるもので、視覚障害者が容易に使用し得るもの	視野障害を除く視覚障害2 級以上の者	47,000 円	10 年

- (注1) 聴覚障害者用通信装置及び聴覚障害者用情報受信装置を除く種目については、入院中及び施設入所中の者にも給付できるものとする。
- (注2) 規則第33条第1項ただし書の規定は、視覚障害者用図書の給付には適用しない。
- (注3) 情報・通信支援用具については、障害の状態等が変化し、前回給付したもので日常生活が送れないと医師が認めた場合、耐用年数内でも給付できるものとする。
- (注4) 情報・通信支援用具については、用具の種類が異なる場合に限り、最初の支給決定に係る当該用具の耐用年数内において基準額まで複数回給付できるものとする。
- (注5) 療育支援用具については、最初の支給決定に係る当該用具の耐用年数内において基準額まで複数回給付できるものとする。

(5) 排泄管理支援用具

種 目	性 能 等	対 象 者	基準額	耐用年数
ストーマ装具	低刺激性の粘着材を使用した密封型若しくは下部開放型の収納袋又は密封型の収尿袋で尿処理用のキャップ付のものであって、ラテックス製又はプラスチックフィルム製のもの ストーマを複数造設している場合は、基準額×ストーマの数とする	ストーマ装具（消化器系） 直腸機能障害で、ストーマを造設した者 ストーマ装具（尿路系） 膀胱機能障害で、ストーマを造設した者	ストーマ装具（消化器系） 9,460 円 （ 1 か 月 当 た り ） ストーマ装具（ 尿 路 系 ） 12,430 円 （ 1 か 月 当 た り ）	ストーマ装具（消化器系） — ストーマ装具（尿路系） —
収尿器	からだに固定して尿を溜めておくもので、障害者が容易に使用できるもの（収尿器を清潔に保たなければならないときは、2 個交付することができる）	下肢・体幹機能障害で、排尿障害（特に失禁）のある者	男性用 7,700 円 女性用 8,500 円	1 年
紙おむつ等 （紙おむつ、脱脂綿等、洗腸用具のうちいずれか一つ）	紙おむつ 介助者が容易に使用できるもの 脱脂綿等 脱脂綿、サラン、ガーゼ等衛生用品で、介助者が容易に使用できるもの 洗腸用具 介助者が容易に使用できるもの	3 歳以上の者で、次のいずれかを満たし、必要があると認められるもの ア ストーマの著しい変形若しくはストーマ周辺の著しい皮膚のびらんのため、ストーマ用装具を装着できない者 イ 二分脊椎等先天性疾患（先天性鎖肛を除く）に起因する神経障害による高度の排尿機能障害又は高度の排便機能障害のある者 ウ 先天性鎖肛に対する肛門形成術に起因する高度の排便機能障害のある者	紙おむつ等 13,200 円 （ 1 か 月 当 た り ） 脱脂綿等 13,200 円 （ 1 か 月 当 た り ） 洗腸用具 13,200 円	紙おむつ — 脱脂綿等 — 洗腸用具 0.5 年

		エ 脳性麻痺等脳原性運動機能障害（＊注１）が６歳未満に発生したことにより、排尿若しくは排便の意思表示が言語に限らずあらゆる方法によってもできない者（＊注２）		
--	--	--	--	--

（注） ストーマ装具、紙おむつ等、収尿器については、入院中及び施設入所中の者にも給付できるものとする。

＊注１ 具体的には、脳性麻痺、低酸素性脳障害、頭蓋内出血、髄膜炎、脳炎、頭部外傷、低血糖症、核黄疸をいう。

＊注２ 具体的には、自分でトイレに行けない、かつ、自力で便座に座ることができない、かつ介助による定期排便ができない者をいう。

(6) 住宅改修費

種 目	性 能 等	対 象 者	基準額	耐用年数
居宅生活動作補助用具	障害者の移動等を円滑にする次の居宅生活動作補助用具と住宅改修 ア 手すりの取付け イ 段差の改修 ウ 滑り防止及び移動の円滑化等のための床又は通路面の材料の変更 エ 引き戸等への扉の取替え オ 洋式便器等への便器の取替え カ その他アからオまでの住宅改修に付帯して必要となる住宅改修	視覚、下肢若しくは体幹機能障害又は乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害（移動機能障害に限る。）を有する者で、障害等級３級以上のもの。ただし、特殊便器への取替えをする場合は上肢障害２級以上の者に限る。	220,000 円	1 家屋につき基準額まで複数回給付可能。ただし、家屋を移転した場合、直前の申請から５年を経過しない時は申請できない。